



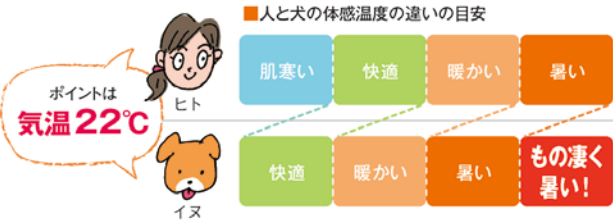
“うちの子に限って”や“去年も大丈夫だったから”と油断しないで。

知ってほしい、熱中症のこと

熱中症…「高温」「多湿」が原因で、体温調節ができなくなる症状です。

人には快適な温度でも“毛皮”を着ているような愛犬にとって、今が暑くないわけがないのです！

人が感じる心地良い暑さは犬にとってはすでに猛暑！ほとんど汗をかかない体質を理解して、飼い主さんが周りの環境を整えてあげましょう。



発症しやすいのはこんな条件・こんな場所

■風通しの悪い、閉め切った部屋

カーテンを開けていたり、クールマットを使用しているも、空気が循環しないため室温が上がってしまうことがあります。

■湿度の高いとき

■興奮しやすい環境や慣れない場所

こんな子は特に注意！

- 短頭種
- 肥満気味の子
- 興奮しやすい子
- 高齢犬

高齢犬は体温調節が成犬に比べ、上手くできない場合があるため熱中症になりやすい傾向があります。また冷えすぎにも注意を。移動が困難な子だと寒く感じて逃げることができません。部屋の温度や使用するアイテムには気を付けてあげましょう。

寒暖の差が激しい今の季節、気温の変化にも注意を。

梅雨頃までは朝晩や前日との寒暖の差が激しいことも。お留守番の前には天気予報をチェック。

水分補給もしっかりと。

水分摂取量が少なく熱中症になりやすいので、自由に飲めるようにいろんな場所に、十分な量を用意してあげましょう。

22℃くらいになったら、居場所を風通しのよい、窓から離れた場所に移動を。



ダブルコートの子はブラッシングで抜け毛をしっかりと取り除いて暑さ対策。



安心安全な夏を過ごすための おたすけアイテム

体の熱を気化させて放出、体温の上昇を抑えます。

- クールベスト、
- クールビッドバンドナ →P.4へ！



お散歩後のクールダウンにも大活躍のクールマット。

理想は自由に涼める場所を用意して、愛犬が自分で快適な環境を選べるようにすること。複数枚をいろんな場所に置いておくのがおすすめです。

- クールアルミジェルマット→P.6へ！
- エコクール™メタリック→P.7へ！



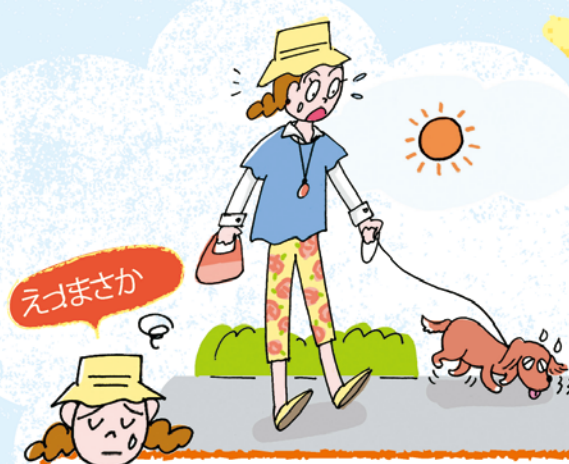
キャリーバッグにこもる熱は、保冷剤で適度にひんやり。

- カバー付き保冷剤クールマリン →P.5へ！



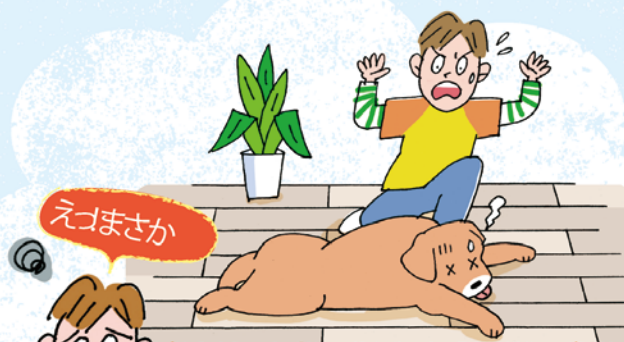
直射日光を避けるため、ウェアの着用もおすすめ。

- BBクールウェアシリーズ →P.9へ！



いつも通りのお散歩、楽しくてハアハアしていると思っていたのに、今日は様子がおかしい…？

それは、体温調節のハアハアではなく、熱中症の前触れかも…。人はそんなに暑さを感じないときでも、犬にとっては地面に近い分だけこたえる暑さになっている場合も。こまめに休憩を取る、水分補給をする、日陰の多いコースを選ぶ、水をかけるなどして体を冷やすなどの対策を。



涼くなったはずの深夜にお散歩。家に帰ってからグッタリしちゃった…。

日が暮れてもアスファルトは熱を持っています。「夜だから大丈夫」と出かけて路面からの照り返しで熱中症になってしまうこともあります。お散歩前には手でさわって確認を。

熱中症の症状がすぐに出るとは限りません。家に帰ってからハアハアしだして発症することもあるので、お散歩から帰ったら、冷たいお水をあげたりクールマットなどを利用してクールダウンできるようにしてあげて。

とても暑い日には早朝のお散歩がおすすめ！夜の間にアスファルトの熱が冷めるので安心です。

すぐに対処を！

こんな症状が見られたら危険です



- 激しくあえぐような呼吸をする
- 歩き方がふらふらしている
- 大量のよだれを出す
- ぐったりしている
- 目が充血したり、耳の内側が赤くなる
- 体が熱くなる
- 水を飲まなくなる



症状が進むにつれ、下痢や嘔吐、けいれん、失神などが見られ、ショック症状を起こして死に至るおそれがあります。これらの症状が見られたら、まずは体を冷やし、すぐに病院へ連絡してください。

今すぐ対策を！

愛犬にとって

熱中症のシーズン、真ただ中！

犬は暑さがこたえだから、気温22℃を超えたら要注意！

この季節、私たちにっては心地いい気温でも愛犬はすでに“暑い”のです。

4月～6月は気温や湿度が急に上がりはじめるため熱中症を発症しやすくなります。



クレート好きうちの子、部屋にはクーラーをつけていたのに体が熱くなってツラそう!?

エアコンで十分に部屋を涼しくしていても、風が通らず空気がこもってしまうクレートなどは愛犬自身の体温で温度が上がる危険が！ ケージやクレートを使う場合は、入口を開けて自由にできるように、けって閉じ込めないようにしてください。